



小学生のための国際理解教材制作事業

「ホレホレ博士とパカタンとアリリの

みんなのくらしを教えてね」が生まれるまで

(財)栃木県国際交流協会

はじめに

(財)栃木県国際交流協会ではテレビ番組を企画し放送しています。不特定多数の県民(視聴者)への効果は非常に大きいものですが、放送の情報は通常一過性で終わってしまいます。番組取材で得る映像素材を有効に活用する手段はないのかと常々思っていました。

この発想から生まれたものが、平成一六年度の(財)自治体国際化協会の助成により実現した「小学生のための国際理解教材(ビデオ)制作事業」です。

栃木県の国際化と南米

話は平成一五年にさかのぼります。効率的な取材で得る映像素材を生かしてテレビ番組とビデオパッケージ(以下、ビデオ)を制作しようとする一石二鳥的な発想ですので、共用しやすい制作コンセプトを描く必要が

あります。テレビ番組は「内外で生活するブラジル、ペルーの日系人を通じた国際理解(一般向け)」に、ビデオは「ブラジル、ペルーを紹介する国際理解(子ども向け)」になったのですが、その背景は次のとおりです。

日本の国際化を探る一つの指標として、国籍別外国人登録者数があります。栃木県の場合、ブラジル(一位)、ペルー(二位)で全体の約四〇%を占めています。また、県内の外国人児童生徒の国籍別就学者数は、ブラジル(二位)、ペルー(二位)で全体の約六〇%を占めています。これらは栃木県の大きな特徴であると言えます。

また、日本人が海外に移住した国として知られているブラジルとペルーは、多くの日系人が現地社会に溶け込み、共生社会が築かれています。近年は、移住者の血縁者である日系人やその家族が日本に長期滞在するケースが増加しており、このことは県内の外国人登録者の数値にも大きく反映しています。

当然のことながら、ブラジルとペルーは栃

木県と深いつながりがあり、県民が日常生活において接する機会が多い外国人の母国です。同時に県内の子どもたちにとっても、同じ目線で付き合う機会が最も多い外国人児童の母国であり、親しみがわく国の一つです。

地域における多文化共生社会の形成に向けた原動力は住民一人ひとりの意識や行動であり、それが備わった社会基盤です。しかしながら一部の人には浸透していないという現状を考えると、多文化共生社会の礎となる国際理解の幅広い啓発や遠くて近い国であるブラジルとペルーを理解することは、栃木県の国際化を進める重要な土台とも言えます。

ビデオができるまで

ビデオの制作コンセプトは前述のとおりですが、一作のビデオですべての子どもを対象にすることは困難です。内容の濃いものを制作するために、中高学年児童を対象

を絞るという考えもありました。しかし、ブラジルとペルー国籍の低学年児童も当然のことながら就学しているので、彼らと日本の低学年児童との間に小さな懸け橋をさらに築ければとの思いから、あえて対象学年を下げることにしました。とは言うものの、「世界」という概念をほとんど認識していない低学年児童に大人が考えているような国際理解をダイレクトに伝える術もなかったため、将来、国際理解への関心が芽生える種を蒔けるビデオ作りを意識しました。

もう一つの重要な制作コンセプトは、「集中しながら楽しく学べるビデオ」です。知り合いの先生、小学生などの意見を聞きながら、また子ども向けのテレビ、ビデオ、雑誌などを研究しながら内容と構成の検討を重ねたのですが、制作経費などの制限がある中で作業は大変なものでした。

ビデオの中心はブラジルとペルーの現地映像ですが、取材は一発勝負なので撮り漏れは致命的です。日本との違いを見せるための文化風俗、名所旧跡に始まり、子どもたちが日頃から身近に感じ興味のある食べ物、動物、乗り物なども対象としました。最大の特徴は、ブラジルとペルーの子どもたちやその家庭、学校での生活を取り上げたことです。子どもたちが容易に自分と比較できる格好の映像素材であると考えたからです。

いよいよビデオとテレビ番組の制作に向けた海外取材となるのですが、期間や費用



↑ビデオパッケージ

などの制限を払拭してくれたのがブラジルとペルーの栃木県人会です。取材先の選定や日程調整、取材への同行と通訳、ホームステイの提供など、細部にわたり



→ビデオのコマ(ブラジル)

尽力してくれました。

取材で得た映像素材を吟味しながら、子どもたちをよりビデオに引き込ませるための検討が続きました。ビデオを生かすも殺すも、このビデオ構成の出来にかかってきます。ストーリー性のあるシナリオ、クイズの取り入れ、キャラクターの制作、CGの活用、効果的な時間の設定と配分など、さまざまな要素を取り込みながら、編集、MAという最終工程にこぎつけることができました。こうして、平成一七年二月、発想から完



→ビデオのコマ(ペルー)

おわりに

成までに足掛け三年を要したビデオ「ホレ博士とパカタンとアリのみんなのくらしを教えてね」ブラジル・ペルーの文化紹介」が産声を上げたのでした。

このビデオは、県内の小学校や児童館などにおいて国際理解活動の一助として活用してもらうために配布するとともに、家庭などでも見ってもらうことも視野に入れて、図書館の一般閲覧用としても配布しました。本来、国際理解を進めていくうえでは、双方向性のある参加体験型学習が望ましいのでしようが、ビデオの性質上情報の一方通行であり、そこから直ちに次のステップへつながることは少ないとも思います。一人でも多くの子どもたちがブラジルとペルーの映像を楽しみながら他国・異文化がある程度でも理解し、何かを感じとってくれればと思います。そして、このことが少しでも国際化を担う豊かな人材の育成につながることを願っています。